

新しい市民編集委員7人が決まる

市民が、市民の目線で企画編集をする市民編集のページ。公募していた市民編集委員に次の7人が選ばれました。今月から2年間にわたって、市民編集のページを担当します。今月4日に市役所で第1回の編集会議を行いました。ここでは市民編集委員が、日ごろ市政について思っていることや紙面作りの意気込みなどについて紹介します。



市民の安心安全を第一に

杉山 市郎 (関根町・68歳)

広報まえばし3月1日号の市民アンケート集計記事によると、将来望ましい都市像は「安心して暮らせる災害に強い都市」、希望する農業の施策では、「農畜産物に使用する農薬や化学肥料をできるだけ少なくするとともに生産履歴の提供」と回答する人が多くいました。市民は安心安全なまちづくりに期待していることが分かります。

市政情報の入手方法の回答では、9割が広報まえばし。これからもこの市民編集のページが市民の皆さんの「知る楽しみ」を増やす一助になるよう頑張ります。



もつと市政に関心を持ちたい

高橋 千佳子 (苗ヶ島町・55歳)

生活の基礎となる市政は、現在の自治体でも厳しい財政状況にあると思います。わたしたちの地域では、平成16年の合併で村民から市民へ、村役場から市役所へ窓口も変わりました。この合併で地域の人の中には、行政が遠くなったと感じる人もいます。

しかし、これからは合併のメリットを生かしていく必要があると思います。そのためには、市政に関心を持つことが必要です。わたしも市民編集を通して市政に関心を持ってもらえるような紙面を作っていきたいと思っています。



健康で豊かな心を育むために

古田島 俊憲 (龍蔵寺町・42歳)

市政には、市民が健康で豊かな心を育めるよう期待しています。4月から特定健診や特定保健指導が始まるのを契機に、健康に関心を持った人は多いと思います。講演会や出前講座などのより一層の充実と誰でも気軽に参加できる雰囲気づくりをしてほしいものです。

また、全国都市緑化ぐんまフェアが6月まで開催されますが、この盛り上がりも一過性のものであってはいけないと思います。フェア終了後も、各地で整備された公園などの自然や設備を有効利用できるような施策を望みます。



にぎわいを取り戻すために

杉崎 輝久 (若宮町一丁目・39歳)

私が前橋に初めて来たのは10年前です。活気のある中心商店街を見て歩いたときの新鮮さと、感動は今も忘れません。市民となった現在、その印象は大きく変わりました。アーケード街の空き店舗や若者が消えた商店街を見ると寂しく感じます。

市政には、広報などを活用し活気を取り戻すための施策をこれまで以上に真剣に考え行動していくことを切望します。中心市街地の活性化は、にぎわい観光課を核に市民と職員が一緒に意見交換をすることが必要なのでないでしょうか。



医療体制を整えて子育てを支援

大澤 幸恵 (朝日町四丁目・38歳)

共働きの家庭にとって、夜間診療は頼みの綱です。子どもは夕方から夜にかけて症状が急変することが多くあります。朝まで待って診察を受けることもあり、それが足かせになって仕事ができないという人も多くいると思います。午後5時から午後9時までの診察をしてくれる夜間開業医があったら良いのではないかと考えています。

市には夜間急病診療所があります。が、もつと夜間の医療体制を整えてほしいと思います。これらが充実し安心して子育てのできる市になることを願っています。



前橋の良い点ピーアールしよう

木塚 敦子 (荒牧町・20歳)

前橋市は、公共施設は多いのですが、宣伝不足のためか、十分に活用されていないと思います。JR前橋駅バス停の案内表示も変更され利用しやすくなりましたが、公共交通機関同士の接続が悪いなど課題も多くあると感じています。

また、前橋の知名度は全国的に決して高いとは言えません。市民が自分のまちの良い点や特色を知れば、もつとピーアールができるのではないのでしょうか。観光資源の選択と集中を進め、観光客が来やすいよう整備をしていく必要があると思います。



市民の声を十分に取り入れて

五明 実乃里 (関根町・20歳)

大学の講義で、中心商店街の活性化計画に触れることができました。過去の計画案は、実現されたとは言いがたく、中心商店街が活性化されたとはいえません。しかし新しい計画案は活性化への期待が持てます。また、前橋プラザ元氣21ができ、少しずつ活性化への道をたどっていると思います。

市では、行政が市民の声を聴くという機会が以前より多くなっていると感じています。市民との対話で改善できる点に気付けば、もつと良いまちづくりができるのではないのでしょうか。